

令和3年度 指定管理者モニタリング結果及び評価シート

評価期間 令和3年4月1日 ~ 令和4年3月31日

施設状況

施設名称	ふじみ野市立児童センター	所管課	こども・元気健康部子育て支援課
指定管理者名	シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社	施設分類	子育て支援施設
指定期間	令和3年4月1日 ~ 令和8年3月31日	利用料金制導入	なし(指定管理料のみ)
導入年月日	平成25年6月1日	指定回数	3回
施設設置目的	児童に健全な遊び場を提供し、もって児童の健康を増進し、豊かな情操をはぐくむ。また、相互援助活動を実施する中で、地域の子育て支援の向上を図り、地域活動支援、地域子育て世代の交流の場を提供することを目的とする。		
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふじみ野市立東児童センター ふじみ野市福岡1丁目2番5号フクトピア3階 延床面積1,418㎡ 鉄筋鉄骨コンクリート造</li> <li>ふじみ野市立西児童センター ふじみ野市大井中央1丁目1番1号大井総合支所3階 延床面積987.39㎡ 鉄筋鉄骨コンクリート造</li> </ul>		
管理運営の基本方針	児童福祉法等の関係法令を遵守し、十分に理解したうえで、利用者のニーズに対応した事業の充実、利用促進に努め、施設の効用を最大限に発揮し、利用者へのサービス向上を図る。また、地域の関係機関や団体と連携協力し、地域の実情を踏まえた施設運営に努め、遊びを与えるだけでなく、子どもとともに遊び、遊びを通じて子どもの生きる力を養う。		
指定管理者の主な業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>健全な遊びの場を提供し、児童の集団及び個別指導を行い、遊具その他設備の利用により児童の体力増進を図る。</li> <li>児童に関係のある組織、機関等との連絡に関する業務。</li> <li>自主事業の実施。乳幼児及び児童の健全育成に必要な活動の実施。ファミリー・サポート・センター事業に関する業務。</li> </ul>		

評価項目

- 【評価基準】
- 5: 目標値以上の結果で、指定管理者のノウハウや努力等によるところが大きいと評価できる場合
  - 4: 目標値以上の結果で評価できる場合(上記「5」以外)、又は業務等が適切で、期待する水準以上であった場合
  - 3: 業務等が適切で目標値に達している場合、又は業務等が期待する水準どおりであった場合
  - 2: 実施計画に基づく管理運営や事業の実施が目標値又は期待する水準をやや下回る場合
  - 1: 業務等が目標値を大きく下回る場合(改善指導が必要)

1 施設の設置目的の達成に関する取組

施設の設置目的や市が示した基本方針、また、自ら提案した内容に沿った管理運営であったか		評価
管理運営状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染拡大防止対策に関する知識を社内のICT(Zoom研修や動画研修)を用いて高め、安全安心な利用に繋がるよう運営を行なった。</li> <li>利用者の個人情報保護について、プライバシーマーク取得に準じた研修や管理により、業務執行に努めた。</li> </ul>	
区分	具体的な取組の状況・実績	
市指定事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふじみ野市立児童センター条例第4条に規定する業務</li> <li>施設の利用許可に関する業務</li> <li>施設、設備及び物品の維持管理ならびに軽易な修繕に関する業務</li> <li>埼玉県児童館連絡協議会に関する業務</li> <li>児童センター運営委員会に関する業務</li> <li>ファミリー・サポート・センターに関する事業</li> </ul>	
自主事業	<ol style="list-style-type: none"> <li>子育て支援拠点事業の実施回数及び参加人数(年間)は 東児童センター154回(5,473人)、西児童センター153回(5,312人)、合計10,785人の親子が参加。</li> <li>東児童センター「フクトピアまつり」、西児童センター「夏祭り」を「ミニお楽しみ会」として実施。 東児童センター182人 西児童センター170人が参加。</li> <li>中高生の居場所づくりとして「夜間開館」「中高生スポーツタイム」を実施。夜間開館は東西児童センター各10回の実施で合計186人が参加。</li> <li>児童の健全な育成を目的とした講座</li> <li>児童の自主活動の支援</li> <li>地域子育て支援拠点事業</li> <li>児童の遊びと居場所づくりに関する情報の収集及び提供</li> <li>子育て世代の交流支援</li> <li>異世代交流として更生保護女性会協力による事業の実施</li> <li>ボランティアや職場体験の受入れ及びインターンシップの育成。中高生による職場体験。インターシップ合計6人、58日間受入れ。</li> <li>バスを利用した工場見学(中止)。代替案として「バルーンアートに挑戦」を実施。東西児童センターで小学生53人が参加。</li> </ol>	3
サービス向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染予防対策の為、児童センター入口で検温、健康チェック表記入の確認、手指の消毒の声掛けをした。</li> <li>返却された玩具や館内のテーブルや手すりなどの消毒、換気にも注意しながら取り組んだ。</li> <li>入退館カードシステム導入による新規登録を積極的に呼びかけ、利用者が円滑かつ安心して利用できるように対応した。</li> <li>子育て支援拠点としての役割を意識し、コロナ禍における親子交流事業の工夫や子育て相談支援に努めた。また拠点同士の繋がりを大切にし、情報共有を積極的に行った。</li> <li>中高生の居場所づくりとして夜間開館やスポーツタイム、中高生優先タイムを実施した。また積極的なコミュニケーションで中高生と信頼関係を築き上げ放課後の居場所づくりとなるよう努めた。</li> <li>ファミリー・サポート・センターの周知活動として定時の館内放送や児童センター事業でファミサポ講座を実施、また出張説明会も積極的に行った。</li> </ul>	

2 指定管理者の健全性

団体の財務状況や組織体制は安定していて、施設管理を継続的、安定的に行うことができるか		評価
外部専門家からの指摘事項の概要	売上高、利益ともに順調に推移している。	3
その他特記事項		

3 施設の有効活用

施設利用状況	利用区分等	予定（計画・目標） 単位	利用実績 単位	対前年比	年度目標達成率	評価
	幼児	16,940	人	19,357	人	
小学生	23,340	人	25,074	人	244.7%	107.4%
中高生	7,260	人	7,118	人	225.1%	98.0%
大人	15,760	人	19,579	人	178.9%	124.2%
計	63,300	人	71,128	人	199.3%	112.4%
(特記事項)						
東児童センター 幼児 9,722人 小学生 15,488人 中高生 3,924人 大人 10,049人 計 39,183人 西児童センター 幼児 9,635人 小学生 9,586人 中高生 3,194人 大人 9,530人 計 31,945人 ファミリー・サポート・センター依頼会員 1,316人 提供会員 167人 両方会員 117人 活動実績 1,600件						
事業実施内容	区分	協定内容・指定管理者提案		追加事業、未実施事業及びその理由		
	市指定事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふじみ野市立児童センター条例第4条に規定する業務</li> <li>施設の利用許可に関する業務</li> <li>施設、設備及び物品の維持管理ならびに軽易な修繕に関する業務</li> <li>埼玉県児童館連絡協議会に関する業務</li> <li>児童センター運営委員会に関する業務</li> <li>ファミリー・サポート・センターに関する業務</li> <li>利用者アンケートの実施</li> </ul>		追加事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>東西児童センター入口での利用者健康管理業務（新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため。）</li> <li>返却された玩具及び館内の消毒作業（新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため。）</li> </ul>	
		未実施事業	なし			
自主事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て支援拠点事業 親子タイム、育児講座、ママの輪、パパの輪、スマイル、お話し会、身長体重測定、リズム体操</li> <li>小学生対象事業 子ども運営委員会、ジャンプ、子どもオリンピック、学びの種、遊びクラブ、東西合同お楽しみバスツアー</li> <li>中高生対象事業 夜間開館、スポーツタイム、優先タイム、ボランティア活動</li> <li>全来館者対象事業 特別イベント（季節の行事、県民の日、祭り等）、今月シリーズ（制作・ぬり絵・折り紙）、今月チャレンジ、先生と作ろう</li> <li>地域連携事業 更生保護女性会協力事業（伝承遊び）、英語絵本読み聞かせ</li> <li>ファミリー・サポート・センター事業 サポートタイム</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>フクトピアっ子祭り（東児童センター） 夏祭り（西児童センター）</li> <li>→新型コロナウイルス感染拡大防止のため、縮小し、代替事業の実施（ミニお楽しみ会）</li> <li>・お楽しみバスツアー（東西児童センター）</li> <li>→新型コロナウイルス感染拡大防止及びバスツアー先の利用縮小のため、代替事業の実施（バルーンアートに挑戦）</li> <li>・上福岡七夕まつりの参加（地域事業）</li> <li>→まつり自体が中止だったため。</li> </ul>			
利用サービス向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ、市報、子育て情報メール、母子モ、ホームページの配信と館内ポスター掲示。子育て支援拠点案内「バンブルーム」「かめさんルーム」の発行、毎月のセンター便り、小学生子ども新聞の発行等の周知に努めた。</li> <li>子ども達が安全に利用できるように、遊戯室やプレイヤードで遊ぶ際は見守りを行い、安全確保に努めた。</li> <li>子ども達が安全に帰宅できるように、安全旗による帰宅時の見守りを実施した。</li> <li>年2回実施している利用者アンケートを軸に要望の多い玩具や図書を検討し購入した。</li> <li>また、自由に発言できる掲示板の活用やリクエストBOXなどで子どもたちが主張できる環境を整えた。</li> <li>新型コロナウイルス感染拡大防止を意識した事業体制に取り組んだ。ソーシャルディスタンスを鑑みた参加人数としたり人気のある事業は、同日に時間を変えて2回の実施としたりするなど工夫した。事業内容はコミュニケーションが出来る環境を保てるよう配慮し実施した。</li> <li>お家時間が楽しめるよう、持ち帰り用ぬりえや簡単な制作キットを設置した。</li> <li>ファミリー・サポート・センター新事業の「サポートタイム」では、初めて預ける保護者と預かる会員のサポートをアドバイザーが行い、その後の依頼や活動へ繋がった。</li> </ul>					

4 利用者評価

区分	内容	評価
利用者の 要望把握	<p>(1) 利用者要望把握方法 両センターにおいてアンケートを2回実施(令和3年6月1日～6月15日/令和3年12月1日～15日)</p> <p>(2) 調査、会議等の内容</p> <p>(実施時期)1回目:令和3年6月1日～6月15日/2回目:令和3年12月1日～15日 各館とも2回実施  (調査方法)窓口にて保護者用・児童用各100枚のアンケートを配布  (回収率)東西児童センター:6月・12月実施 保護者・児童ともに100%  (調査項目)保護者対象:①住所 ②子どもの年齢・学校の内訳 ③来館方法 ④利用頻度 ⑤情報の取得方法 ⑥利用した感想  ⑦来館した印象 ⑧職員の対応 ⑨ファミリー・サポート・センターの認知度  ⑩ファミリー・サポート・センター預かり活動の認知度 ⑪ファミリー・サポート・センター提供会員活動への興味  ⑫参加行事の満足度と感想や要望 ⑬現在の利用方法について ⑭その他の意見や要望  児童対象:①住所 ②学年 ③利用頻度 ④利用時の満足度 ⑤先生の満足度 ⑥小学生向け事業の認知度  ⑦情報取得方法 ⑧参加行事の満足度 ⑨児童センターは遊びやすいかの質問  ⑩その他置いてほしい玩具や参加希望の行事等</p> <p>(3) 調査、会議等の結果</p> <p>【保護者対象アンケート】  東児童センター ①市内在住 94.5% ③来館方法 自転車 45% ④利用頻度 月1～2回 46%  ⑥利用した感想 満足・やや満足 95.5% ⑧職員の対応 満足・やや満足 98%  ⑨ファミリー・サポート・センターの認知度 知っている 81%  西児童センター ①市内在住 92% ③来館方法 車 60% ④利用頻度 月1～2回 41.5%  ⑥利用した感想 満足・やや満足 95.4% ⑧職員の対応 満足・やや満足 96.5%  ⑨ファミリー・サポート・センターの認知度 知っている 73.5%</p> <p>【児童対象アンケート】  東児童センター ①市内在住 99% ②利用児童 小学低学年 34.5% 小学高学年 48% 中学生 16% 高校生 1.5%  ④利用した感想 とても楽しかった・楽しかった 93.5% ⑤先生の対応 良い 80.5%  西児童センター ①市内在住 98% ②利用児童 小学低学年 30.3% 小学高学年 47.9% 中学生 22.2% 高校生 0%  ④利用した感想 とても楽しかった・楽しかった 94% ⑤先生の対応 良い 81%</p>	
利用者からの 評価・要望・ 苦情等	<p>(1) 良好とする評価</p> <p>行事で満足度が高い事業  東児童センター:親子タイム、りんりんリズム、ママの輪、ボンボンお話し会、子どもオリンピック、チャレンジタイム  西児童センター:親子タイム、はかってみよう、スマイル、レッツダンス、チャレンジランキング、今月シリーズ</p> <p>利用者からの評価  東児童センター  ・参加をきっかけにママ友ができたり遊びを覚えたりできました。(親子タイム)  ・2回続けて参加しました。パパの緊張感がよかったです。(0歳パパの輪)  ・想像以上の内容でびっくりしました。子どもにとって楽しい時間だったと思います。(ミニお楽しみ会)  ・ダンボールシアターに参加しました。子どもも夢中で楽しめました。(ぼんぼんお話し会)  ・玩具返却後、その都度消毒していただき安心して遊んでいます。大変な作業だと思いますが、感謝しています。  西児童センター  ・お友だちと制作したり、家ではできないので楽しいです。(親子タイム)  ・帰宅する前(12時頃)にやっていたので参加しやすくりズムの良いダンスで楽しめました。(レッツダンス)  ・何度もやりたくなる程楽しんでいました。(チャレンジランキング)</p> <p>(2) 苦情・改善等の要望事項</p> <p>①土日に親子(乳幼児)で参加できる事業があれば嬉しい。(東児童センター)  ②飲食可能なスペースがあると嬉しい。(東児童センター)  ③お昼に一度閉めてもらえると、子どもの遊びに区切りがつき、泣くことなくスムーズに帰れる。(東西児童センター)  ④来館時の入館手続きが大変と感じる時がある。(東西児童センター)  ⑤絵本が少ない。もう少し増やしてほしい。(西児童センター)</p> <p>《対応措置》</p> <p>①土日は小学生事業及び全来館事業を実施している。親子で楽しめる「ふれあいタイム伝承遊び」や「チャレンジタイム」を周知していく。  ②お茶やお水、清涼飲料水の水分補給について所定の場所ですることを伝える。  ③昨年度、利用制限のあった期間において、正午でいったん閉め、館内消毒の時間を設けていた。一方、お昼の空いている時間帯に利用したい親子もいることを考慮し、親子がスムーズに帰れるよう声掛けをしていく。  ④利用カードを登録していただくことで、記入の負担を少なくした。  ⑤感染症対策の為、絵本の冊数を下げていたが規制緩和に伴いコロナ禍前の冊数に戻した。</p>	4

5 事業収支

(単位：円)

	指定管理者収支 ( 令和3年度 )				市の収支				評価	
	年度計画額		収支実績額		令和3年度決算		令和2年度決算 (前年度)			
	項目	金額	項目	金額	項目	金額	項目	金額		
①指定管理 業務事業収支	収入	利用料金	0	利用料金	0	歳入	施設使用料		施設使用料	
		事業収入	100,000	事業収入	39,095		行政財産使用料		行政財産使用料	
		指定管理料	61,869,000	指定管理料	61,869,000		国庫支出金	1,947,000	国庫支出金	1,732,000
		雑入	0	雑入	0		県支出金	1,947,000	県支出金	806,000
		管理運営費 への充当	10,000	管理運営費 への充当	0		その他		その他	
		計	61,979,000	計	61,908,095		計	3,894,000	計	2,538,000
	支出	人件費	46,014,000	人件費	46,184,472	歳出	修繕料		修繕料	
		消耗品費	1,510,000	消耗品費	1,881,514		保険料		保険料	
		光熱水費	4,196,000	光熱水費	4,128,021		指定管理料	61,869,000	指定管理料	61,500,000
		委託料	240,000	委託料	449,706		業務委託料		業務委託料	
		賃借料	40,000	賃借料	487,292		土地・建物 賃借料		土地・建物 賃借料	
		通信費	540,000	通信費	432,872		その他	704,000	その他	
		保険料	1,100,000	保険料	461,463					
		修繕費	1,000,000	修繕費	92,260					
事業費 (市 指定事業)		0	事業費 (市 指定事業)	0						
公租公課		0	公租公課	0						
一般管理費 (本社経費 等)	7,339,000	一般管理費 (本社経費 等)	7,790,495							
計	61,979,000	計	61,908,095	計	62,573,000	計	61,500,000			
収支	0		0		差引	△ 58,679,000		△ 58,962,000		
②自主事業 収支	自主 事業 収支	収入	100,000	収入	39,095					
		支出	100,000	支出	57,450					
		自主事業収支	0	自主事業収支	△ 18,355					
③収支 ※指定管理事 業+自主事業 (①+②)	収支	0		△ 18,355						
④市への 納付金 ※納付金があ る施設のみ	市へ の納 付金	支出	0		0					
⑤最終収支 (③-④)	収支	0		△ 18,355						
⑥新型コロナ ウイルス感染 拡大防止に係 る過年度指定 管理料 (令和 2年度分)	(収入) 市からの給付額		0		(歳入) 指定管理者からの返還額		300,907			
	(支出) 市への返還額		300,907		(歳出) 指定管理者への給付額		0			
分析	人件費比率【人件費/指定管理者事業支出】							74.6%		
	事業収支における経営分析				消耗品の計画額と実績額の差異は新型コロナウイルス感染予防対策による経費が増え、計画時の想定以上に完全に対策を講じたことによるもの。また、保険料の差異は、コロナ禍により来館者が減少したことで保険料がかからなかったため。このことから、コロナ禍を見据えた計画を立て、差異が少なくなるような収支計画の作成が必要となる。賃借料の増については、フクトピア施設の電気のLED化によるレンタル料金が6月より発生した費用となる。					
	一般管理費が、計画額と実績額で異なる理由				コロナ禍により、施設状況確認のための児童センター指導員の巡回回数が通常時より増えたことによる。					

## 6 管理運営全般

※すべて「適」で「3」。「4」・「5」・「否」とする場合は、必ず特記事項欄に理由を記載すること。

区分	確認内容	適否欄	評価
市との連携	1 市への報告、連絡、相談又は協議が適切に行われたか	適	3
	2 市からの指示等に対し適切な対応が図られたか		
職員配置	1 施設管理運営に必要な人員が適正で有効に配置されているか	適	
	配置実績 平日5名以上 土日6名以上 学校休業期間中月曜日から金曜日7人以上 (統括責任者たる所長・所長及び副所長含む)		
	2 専門性を備えた職員、有資格者が必要に応じて配置されているか		
	3 労働関係法令を遵守し、職員の適正な労働条件を確保しているか		
平等利用	4 職員の資質・能力向上を図り、施設を適切に運営するための取組みや研修がなされたか	適	
	1 特定の団体や個人に偏らない、公平・公正な、透明性の高い運営がなされたか		
経理	2 利用許可、減免等の事務手続きが適切に行われたか	適	
	1 施設の管理運営に係る収支の内容や、指定管理料、利用料金等の取扱いは適切に行われたか		
施設・備品の維持管理	2 収支内容等を記載した帳簿を整備しているか	適	
	1 必要とされている保守、点検、清掃、保安、警備等、必要な維持管理業務が確実に実行されたか		
その他	2 備品は台帳、目録等を整備の上、管理が適正に行われたか	適	
	1 日常的、定期的に業務の点検、監視が行われたか		
特記事項	2 事業計画・報告書、予算書・決算書や、施設の利用状況などの定期報告、点検・検査結果報告などが適切な時期に提出されたか	適	

## 7 危機管理体制

※すべて「適」で「3」。1箇所でも「否」の場合は「1」。「4」・「5」・「否」とする場合は、必ず特記事項欄に理由を記載すること。

区分	確認内容	適否欄	評価
安全対策	1 危機管理マニュアルが整備されているか	適	3
	2 危機管理マニュアルの内容が職員に周知されているか		
	3 常に、日常の事故防止などに注意を払っているか		
個人情報保護	1 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切であったか	適	
防犯、防災対策	1 防犯、防火などの対策、体制が適切であったか	適	
	2 防災訓練など、必要な訓練が実施されたか	適	
緊急時対応、体制	1 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか	適	
	2 必要な保険に加入するなど、利用者などからの損害賠償請求への対応措置が講じられているか		
特記事項			

総合評価

【総合評価】 S:極めて優れている/A:優れている/B:やや優れている/C:適正である/D:努力が必要である/E:改善が必要である

総合評価		子育て支援施設	
評価項目	評価	総合評価	
施設の設置目的の達成	3	B	
指定管理者の健全性	3		
施設の有効活用	3		
利用者評価	4		
事業収支	3		
管理運営全般	3		
危機管理体制	3		

評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、検温や健康チェック表の記入と返却された玩具や館内消毒に努めたことで、利用者が安心して遊ぶことができた。</li> <li>・放課後デイサービスやその他団体の利用の際は、支援の幅を広げ、利用者に寄り添った提供をすることができた。</li> <li>・乳幼児から中高生まで参加できる事業を企画し、実施した。コロナ禍のため、実施できなかった事業についても、代替の事業を行うことで、子ども達に提供することができた。</li> <li>・利用者アンケート結果から、児童センターを利用した感想と職員の対応について、「満足・やや満足」の割合が95%以上と高評価であった。</li> <li>・初めて利用する親子への丁寧な案内や児童センター事業などの周知活動を強化したことで、より多くの子どもたちの利用に繋がった。</li> <li>・日常点検、定期点検について、点検票を元に確認し、施設の良い状態維持に努め、安全に運営することができた。</li> <li>・事故や施設の故障箇所などが発生した際に、ただちに連絡を取り合い、情報共有を図れたことで、迅速に対応することができた。</li> </ul>
------	--

	前年度からの課題・改善事項	実施状況	次年度へ向けての目標・取組・改善事項
取組・改善案等	<p>①緊急事態宣言により令和2年2月29日～6月7日まで休館となった。6月8日からの開館に伴い、指定管理者と具体的に話し合いを重ね、開館に向けた準備を整えた。開館に向けて、児童センター入口での健康観察の取組を開始し、消毒できる玩具の検討とその準備や事業の見直しを行うなど、コロナ感染拡大防止対策を徹底しながらの開館となった。</p> <p>②中高生の利用が減少していることで、居場所づくりとして始めた「中高生スポーツタイム」を軸に、来館に繋がる工夫を検討していく必要がある。</p> <p>③ファミリー・サポート・センターの提供会員を増やすために、チラシの配布、出張説明会など実施してきたが、増加に繋がっていない。</p>	<p>①指定管理者より来館人数や来館状況を報告してもらい、状況把握に努めた。</p> <p>①完全予約制や館内や玩具の消毒だけでなく、コロナ疲れしている親子や子ども達のフォローができるよう、職員が利用者の声を聴き、楽しく利用できるよう工夫しながら運営を行った。</p> <p>②中高生スポーツタイムの他、中高生優先タイムを設け、平日の17時以降は中高生が優先的に利用できるようにした。部活動が中止されている中で、友達と体を動かせる機会であることを周知することができ、利用の増加に繋がった。</p> <p>③ファミリー・サポート・センターの周知を児童センター利用者へ発信し、認知度を上げた。</p> <p>③新事業「サポートタイム」の依頼で活動がない提供会員へ積極的に声掛けを行い、再活動へ繋げることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時対応の避難訓練をポスター等で周知し、職員と利用者が一緒に実施することで、利用者側ももしもの時の対応を理解することができるため、双方ともに危機管理を共有できるよう改善していく。</li> <li>・中高生が児童センターを居場所として、今以上に認識していただけるよう、運動や遊びだけでなく、自主的なボランティア活動まで援助していける体制を整えていく。</li> <li>・小学生が児童センターでの遊びや事業を通して、学校とは違った環境で様々な経験ができるよう援助していく。</li> <li>・ファミリー・サポート・センターは登録のある提供会員の意欲が下がらないよう、現在活動から離れている方にも積極的な依頼や連絡を行っていく。</li> </ul>

## 指定管理者自己評価

### (1) 評価期間の取組に対する評価

#### ① サービス向上に向けての取組

- ・新型コロナウイルス感染予防対策として、東西児童センター入口での手指消毒や検温、健康チェック表、連絡先の記入の協力をお願いし、子ども達が安心して利用できる環境を維持した。
- ・マスク着用による熱中症予防のため紙コップを使用した冷水器の供給（職員対応）を開始。（水筒を忘れたり、水筒が空になってしまった子ども達への対応）
- ・屋外プレイヤードは熱中症指数チェッカーの使用や暑さ指数（WBGT）による判断を行い、熱中症による危険を未然に防ぐ注意喚起を徹底した。小学生でも理解できるよう、プレイヤード入口に顔マークを使用した注意喚起掲示を行った。
- ・10月25日から利用制限の緩和にともない、利用方法についてホームページや館内放送やポスター、手紙の配布等を行い利用者に伝えた。
- ・また緩和後も、来館が多く見込まれる時は遊戯室にジョイントマットを敷いたり（東児童センター）、窓口前の交流スペースにジョイントマットを敷く（西児童センター）などして、遊び場所を明確化することで密にならないような環境を整えた。
- ・感染予防として、返却された玩具の消毒や定時の館内消毒、各部屋の換気および空気清浄機の使用で安心して利用できるような努めた。
- ・乳幼児親子や小中学生にコロナ禍でも地域の居場所として利用していただけるよう、感染予防対策を行いながら企画した事業の大半を実施した。密にならないように考慮し、参加人数が多くなってしまふ事業は2回の実施としたり、ソーシャルディスタンスが保ちやすい遊戯室で事業をしたりするなど臨機応変に対応した。
- ・おうち時間が増えたことを受け、家でも楽しめる制作キットやぬり絵、ペーパークラフトを設置し多くの子ども達が持ち帰った。また弊社で提供している謎解き「遊び新聞」、季節のレシピやクイズなどを紹介する「食育通信」で保護者も楽しめる内容を充実させた。
- ・小学生の帰宅時間に合わせて、子ども達が安全に帰宅できるよう見守りを行った。
- ・中高生の居場所作りとして力を入れてきた「スポーツタイム」「優先タイム」は、学校が部活停止であったこともあり、体力増進の場として需要が高まった。また、積極的に職員が声をかけをして、中高生との関係性を深められたことで、小学生事業や自由配布の制作キット作りなどのボランティア活動に意欲的に参加するようになった。
- ・図書は利用者アンケートや掲示板等で要望が高かったアニメや、宿題や課題に役立つ児童書、絵本など東西児童センターで寄贈図書含む300冊以上を設置した。
- ・図書室に置いてある絵本や学研図書などを幼児室や工作室に置き、他の部屋でも読めるようにしたことで、部屋の行き来を少なくし、利用しやすさに繋がった。
- ・ファミリー・サポート・センターの新事業「サポートタイム」を毎月実施したことで、預かりに不安や心配を抱える提供会員の活動意欲を向上させるきっかけを作った。
- ・「サポートタイム」実施中は提供会員は「ファミサポ」の名札をつけることで、児童センターを利用している親子への周知にもなった。
- ・顔合わせから職員が付き添い、内容のやり取りや預かり時に補助することで安定した活動に繋がった。
- ・小学生事業は企画の時点で内容を決定せず、子ども達の希望を反映させられるような実施体制をとった。また、児童センターの事業に興味をもった中学生が小学生の事業にボランティアとして何度も参加してくれた。
- ・年間を通して、利用者の声を大事にしなが運営を行なった。中高生のスポーツタイム、優先タイムは持込みラケットやシューズの使用希望を取り入れた。また、小学生の制作事業に乳幼児も参加したいとの声が多く上がり、みんなが参加できる事業へ変更した。

#### ② 業務の効率化に対する取組

- ・職員の安全管理では、毎朝の検温と健康チェック表の記入を実施。飛沫防止対策として職員の机と机の距離をとり、飛沫防止の亚克力板を設置した。
- ・職員やその家族がコロナ感染や濃厚接触者となったり、熱などの症状が出たりした際は早急にエリアマネージャー、東西児童センターで共有し、主管課へ報告を入れた。また抗原検査キットを常備し、補助対応として使用出来る体制がとれた。
- ・事業情報が平等にいきわたるよう、子育て支援拠点事業の紹介「バンビルーム」「かめさんルーム」の発行で保健センターや各拠点施設に計約2,000枚を配布した。主管課を通し広報や情報メールの配信、センター便り、子ども新聞、ホームページ、母子モ、ブログ等で周知を活発に行なった。特に、子ども新聞は市内の放課後児童クラブへ毎月500枚ほど配布をし、来館に繋がるよう努めた。
- ・児童厚生員研修、普通救命講習の取得、子育て支援員研修、子どもの心のケア研修、子どもの健全育成リーダー養成セミナーほか、避難訓練やエビペン、チャイルドケアプログラム等の社内研修用動画配信を利用し知識を高め能力向上に努めた。また、アレルギーやノロウイルスに関する知識を深めるため、社内品質管理部発行の食品研修も毎月実施した。
- ・主管課を通し、入退館システムの修正や調整を行った。また利用者登録を積極的に進め東西児童センターで約5,000人が登録となった。
- ・登録してもらうことでスムーズに入館してもらえるようになった。また小学生はケガや忘れ物をした際にすぐに保護者と連絡がとれる体制を整えた。
- ・小学生が利用カードを持ち歩くようになり、破損や紛失等の問い合わせが増えたため、耐久性のためにラミネートをかけて配布し、再発防止やスムーズな入館に努めた。
- ・定期的に東西児童センターで会議を実施し、職員間で意見交換を行い、利用者アンケートや子ども運営委員会等で出た利用者からの意見の回答を考え、サービスの向上に努めた。また、それぞれの児童センターで行った事業内容を共有することで、よりよい形で事業を行うことができた。
- ・館内掲示は事業に関するものやSDGsの取組み、季節や行事に応じて貼り替えをするなど工夫をした。
- ・SDGsの取組みとして来館のない時間帯などは必要に応じて電気を消したり、廃材を使用した工作やペットボトルキャップの回収、センター便り等の配布枚数の見直しを行った。
- ・毎日、返却された玩具の破損や紛失がないか点検をした。特に小さなものは、そのつど確認し乳幼児の誤飲にならないように努めた。
- ・ファミリー・サポート・センターでは館内放送による周知を強化したことで問い合わせが増えた。子どもを預かってもらうことに不安をもつ保護者にとって「サポートタイム」は気軽に預ける体験ができ、継続した依頼へ繋がった親子もいた。また、2階の児童発育・発達支援センターを利用するため、兄弟を児童センターで預かってほしいという依頼があり「サポートタイム」体験後、活動へ繋がった方もいた。
- ・ファミリー・サポート・センターの提供会員へ基礎講座や普通救命講習の受講についての必要性を説明し、定期的な参加を促した。また、依頼会員へ提供会員の紹介をする際に、講習等を受講した会員である旨伝え、依頼会員の安心感へ繋がられるよう説明を行った。

#### ③ その他

- ・小学生対象の東西合同バスツアー代替案として「バルーンアートに挑戦」を東西児童センターで実施。感染対策を徹底し、2色を使用した「お花」「剣」の中から好きな物が作れるよう予約制で行った。子ども達はバルーンに空気を入れることも初めてで悪戦苦闘していたが、職員と楽しく完成することができた。また、その日に来館した先着50人の子ども達へバルーンアート「跳びねずみ」をプレゼントした。
- ・小学生対象の新事業「先生体験」は教える立場に立つことで、子ども達の自己肯定感を育てるとともに「子ども運営委員会」同様、児童センターへの信頼感や協力体制に繋がった。
- ・初めて来館した方へ、センター便り、ファミリー・サポート・センターのしおりを渡し、丁寧な館内案内を心掛けた。
- ・事業についても参加に繋がるよう館内案内を行う際に掲示ポスターを利用し紹介を行った。
- ・東西児童センターの職員が互いの児童センターに行き、職員と交流し、取り組んでいる事業や運営方法について学び、お互いの良い部分をそれぞれの児童センターで活かした。また「シダックスすまいるネット」を利用し、他児童館事業や掲示、学童の取組みのほか施設で起こるヒヤリハットを共有し、運営に活かした。
- ・埼玉県児童館連絡協議会主催の会議、研修（Web）に東西児童センター共に参加した。また研修会担当役員であったため、児童厚生員研修会開催の準備等を行った。

(2) 管理業務実施上の課題

【東児童センター】

- ・遊戯室の換気で窓を開けている為、虫の侵入が多かった。簡易ネットを貼って対応しているが虫を捕獲する作業が大変であった。
- ・屋外プレイヤードのお絵かきハウスが老朽化してきた。「ささくれ」等の心配も多い。

【西児童センター】

- ・地震により遊戯室の天井板にズレが生じた。落下の危険性はなく遊戯室は通常通り使用。今後ズレが大きくなった場合は大井総合支所と相談しながら修繕を進めていく。
- ・階段付近に受付を設置したことで、事業開始前などが集中する時間帯になると階段付近が混雑してしまう。

整列しやすいように床にテープを貼るなどの工夫をしてソーシャルディスタンスを保つことが必要。

(3) 次年度以降の取組

【東児童センター】 令和3年度の実績 利用者数39,183人 月平均約3,265人 令和4年度は利用者数40,960人 月平均3,413人を目標とする

【西児童センター】 令和3年度の実績 利用者数31,945人 月平均約2,662人 令和4年度は利用者数33,460人 月平均2,788人を目標とする

- ・掲示を工夫し児童センターの魅力をより多くの方に周知できるように努めていく。
- ・月1回実施している避難訓練を児童センター便りや館内ポスターで周知をしていき、利用者にも積極的な参加を促すことでもしにも備えた体勢をつくる。
- ・小学生の居場所になるように、職員が積極的に子どもたちと関わることを心掛け、1人で来た子ども達と職員が遊んだりする時間を今まで以上に作っていく。
- ・更生保護女性会やボランティアの方々と協力し、さらに地域との繋がりを意識した事業を行っていく。
- ・初めて来館した親子への館内案内の際、ファミリー・サポート・センターのしおりも添え、簡単な説明をすることで、子育て中の保護者へファミリー・サポート・センターについての認知度を高めていく。